

第二中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

学校名 第二中学校 三の丸小学校
五軒小学校 柳河小学校

目指す児童生徒像 地域を愛し、笑顔絶やさず、前向きに行動する児童生徒

研究主題 地域を愛し、笑顔絶やさず、前向きに行動する児童生徒の育成

1 主題設定の理由

第二中学校区は、三の丸小学校、五軒小学校、柳河小学校（一部は第一中学校へ進学）の三つの小学校が第二中学校に進学する3小1中の中学校区である。本中学校区ではこれまでに、教職員間で「小中夏季合同研修会」や「小中協働地区巡視」、「相互授業参観」など、児童生徒間では「先輩（中学生）から話を聞く会」などを実施し、児童生徒の実態を把握したり、情報を交換したりすることで、小中の連携を深めてきた。しかし、児童生徒の発達段階を踏まえた9年間を見通した取組であったかという点、不十分さを感じる面がある。各小中学校や地域の特性を踏まえた系統的で継続的な小中一貫教育を実践することが、本中学校区のこれからの課題であると考えている。

また、本中学校区には日本遺産に登録されている弘道館や偕楽園をはじめ、歴史に関わる文化遺産が数多く存在し、児童生徒はこれらの文化遺産に囲まれて日々の生活を送っている。これらの文化遺産については、これまでも各小中学校ごとに、水戸まごころタイムにおいて、テーマを設定し、調査活動を通して理解を深めてきた。しかし、小中間や小小間において、互いの取組内容が十分に理解されないまま、小学校から中学校へと接続がなされていた。「めざす児童生徒像」にある「地域を愛し」を推進するためには、これらの文化遺産について児童生徒が幅広く理解し、自分たちの地域に誇りをもてるようにすることが大切であると考えている。そのためにも、「知」「徳」「体」を基盤にし、「歴史（水戸まごころタイム）」を軸に各学校の取組内容を共有しながら、系統的で継続的な小中一貫教育を推進していく必要があると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

「知」「徳」「体」を基盤にし、「歴史（水戸まごころタイム）」を軸とした系統的で継続的な小中一貫教育を推進し、次の四つのような資質や能力をもつ児童生徒を育成する。

- 話をよく聴き、よく考える子供
- あいさつができ、進んで働く子供
- 進んで体を動かす元気な子供
- 水戸の歴史を語れる子供

3 具体的な取組内容

(1) 知の部会

- ① 全国学力・学習状況調査の分析

- ・小中合同教科部員会を実施し、小中合同で「表現力を高める取組」について確認した。
- ② ノートの書き方の確認
- ・振り返りを意識させること、視点を決めて書かせることについて小学校間で共通理解を図った。
- ③ 学習指導案検討会の実施
- ・中間発表会に向け、小中合同で実施した。



(2) 徳の部会

- ① 小中合同あいさつ運動
- ・中学生が学年ごとに卒業小学校へ朝立ち寄り、小学生と一緒にあいさつ運動を実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中学2年生が行う時期で実施できず、中学1・3年生による実施のみとなった。
- ② 小中合同いじめ解決フォーラム
- ・テレビ会議システムを活用し、各学校の取組を紹介する等、児童生徒によって行った。
- ③ 学習指導案検討会の実施
- ・中間発表会に向け、小中合同で実施した。



(3) 体の部会

- ① 1年目の体力テストの分析を生かした取組
- ・各学校において、「投力」「柔軟性」「握力」を高める運動を取り入れた準備運動や主運動を実践した。
- ② 二中ソーラン節の実施
- ・第二中学校の運動会でソーラン節を実施しているため、柳河小学校にて中学校教員による出前授業を行い、小学校他の2校との足並みを揃えた。
- ③ 小学校間での共通の取組
- ・県の事業のスポーツチャレンジ（8の字跳び）への参加や縄跳びカードを三つの小学校で共有した。
- ④ 学習指導案検討会の実施

- ・中間発表会に向け、小中合同で実施した。



(4) 歴史の部会

① 各小学校での出前授業の実施

- ・五軒小学校、柳河小学校、三の丸小学校（1組、3組）でのプレ授業ごとに改善を重ねた。

② 学習指導案検討会の実施

- ・小学校教員と中学校教員との共同で授業を開発した。



4 成果（進捗状況と今後の課題）

(1) 進捗状況

① 知の部会

- ・既習事項の系統性や課題を共有することができ、各校で児童生徒が身に付けるべき学力が明確になった。
- ・児童生徒は人の話がよく聴けるようになってきている。
- ・児童生徒の振り返りについては、「書き出し」と「書き方」を教えるところから、「キーワードを入れて」等、視点を決めて書かせるというような一つ上のステップに進んでいる。

② 徳の部会

- ・中学生が各小学校に来校することで、あいさつ運動に活気が出てきている。
- ・児童生徒によるテレビ会議によって、児童生徒の達成感を満たすとともに、今後の児童会や生徒会活動を自分たちの手による運営を行う自信を付けることができた。
- ・道徳の授業について、1時間の授業改善だけでなく、ローテーション授業を実施するなど、充実を図るための改善策について具体的に実践することができた。

③ 体の部会

- ・1年目は「黙働」や「ボランティア活動」を含んでいたが、ねらいを見直し、主に「体力の向上」「健康・安全」に重点を置いて部会を進めたことで、研究の焦点化が図れた。
- ・各小学校で栄養教諭による食育指導を継続して実施し、給食や家庭での食事に関する意識が高まった。

- ・各学校での体育の授業時の準備運動や二中ソーラン節の実施，縄跳びカード・目標設定の共有等，小学校が共通した取組を実施することにより，児童の中学校への円滑な接続が図れた。

④ 歴史の部会

- ・グループ活動を取り入れたことにより，児童が意欲的に学習することができた。
- ・出前授業における講義主体の授業からグループ活動主体の授業への変更は，児童が意欲的に水戸城に関する学習に取り組むために効果的であった。
- ・小学校教員と中学校教員との共同で授業を開発したことにより，出前授業のねらいが明確になり，最終年度に向けての方向性を共通理解することができた。

(2) 今後の課題

① 知の部会

- ・国語科の取組を他の教科にも広げていくこと。
- ・ノートの書き方を確認し共通理解を図ったが，継続していくことが大切であるとともに，レベルアップしていくこと。

② 徳の部会

- ・あいさつ運動時だけでなく，あいさつをこれからの生活の中で実践できるようにするための手立てをしていくこと。
- ・テレビ会議システムを活用し，「あいさつ運動の様子」や「朝のボランティア」についても活性化を図っていくこと。

③ 体の部会

- ・体力テストを各学校ごとに実施し，児童生徒の体力の状況把握を行っていくこと。
- ・「進んで体を動かす子供」の育成の検証として，今年度中の意識調査を行うとともに，次年度との比較検討を行うこと。

④ 歴史の部会

- ・出前授業1時間では，児童にとって学習時間が短く，学習にゆとりがなくなってしまう自分の担当以外の場所について理解を深めるまでにいたっていないため，次年度の時数や小学校教員への教材の解説など取組の見直しを図っていくこと。
- ・漢字が読めなかったり，専門用語の意味を理解できていなかったり，何を読み取ればよいか分かっていなかったりするので資料の改編を行っていくこと。